

# まなぶくんだより

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌



## キャリア教育研修 ～新学習指導要領におけるキャリア教育～

新学習指導要領では、子供たちの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むために、キャリア教育推進の必要性が述べられています。教育センター学びの丘では、キャリア教育の意義について理解を深め、特別活動を要としたキャリア教育を充実していくための「キャリア教育研修」を実施しました。県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校から 300 人を超える先生方が集まり、熱気に満ちた研修となりました。

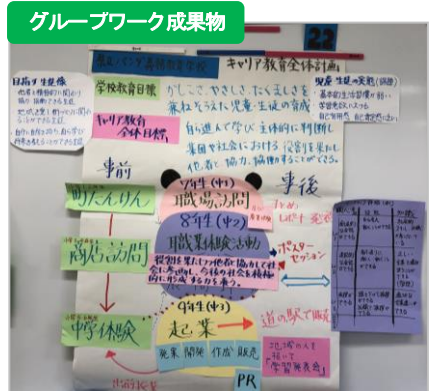


グループワークの様子

講師に、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター長田 徹 総括研究官を迎え、キャリア教育の全体計画を立てるグループワーク演習を通して、「キャリア教育を創る」とはどういうことかについて学びを深めました。その後、演習のまとめ・意味付けとして、新学習指導要領とキャリア教育について、長田総括研究官からご講義いただきました。

新学習指導要領におけるキャリア教育の充実	
小学校	中学校・高等学校
<p>児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。</p> <p>－小学校学習指導要領 第 1 章 総則 第 4 の 1 (3)</p>	<p>生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科（各教科・科目）等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方（自己の在り方生き方）を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。</p> <p>－中学校学習指導要領 第 1 章 総則 第 4 の 1 (3)                      －高等学校学習指導要領 第 1 章 総則 第 5 款 1 (3)</p> <p>※ ( ) 内は高等学校</p>

研修後のアンケートには、「グループ演習では、初対面の人との限られた時間でも、これだけの計画を作れたので、自校であれば更に充実したものができると感じました。ぜひ自校でも実践したい。」「自校の取組を点検し、児童生徒の将来を考え、地域と学校の学び、学校種間の連携をつなげていきたい。」等の感想が寄せられました。研修を通して、受講した先生方は、キャリア教育の推進により、勤労観・職業観の醸成だけではなく、学習意欲の喚起や将来に対する不安の解消、自己肯定感の向上につながることを実感できたようです。



本研修の学びを、各校・各地域でのキャリア教育の充実に生かすとともに、これまでの取組を見つめ直し、更なる実践につなげることを期待しています。

### ごあんない

#### 学びの丘WEBサイト 今後の掲載予定

- 12月初旬 チャレンジ確認シート「補充学習・家庭学習のための問題」（中学校英語含む）
- 12月中旬 平成30年度和歌山県学習到達度調査 結果分析と指導のポイント 等

学びの丘 WEB サイトには、他にも役立つ情報がたくさんあります！ぜひご利用ください！





## 初任者研修授業研修 ～授業実践力向上に向けてがんばっています！～

9月から県内各地域において、初任者研修授業研修が始まっています。今年度は、小学校54校、中学校29校、高等学校4校、特別支援学校6校の合計93校で実施されています。

授業研修は、児童生徒理解に基づいた授業の在り方や教材研究及び指導技術等について理解を深め、授業実践力の向上を図ることを目的としています。教職基礎研修や宿泊研修でも、学習指導案検討や模擬授業演習など、グループワークを通して、初任者同士が切磋琢磨しながら授業力の向上に取り組んできました。

和歌山県教育委員会が策定している「教員としての資質の向上に関する指標」では、採用1年目から3年目までのキャリア段階を「基礎形成期」と位置付け、この時期に身に付けておきたい授業実践力として、①授業構想能力、②指導技能、③省察の3点について、(表)のように示しています。また、「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」や「和歌山の教育 基礎・基本」を基に、次の3点に留意して、授業づくりに関する研修を実施してきました。



1. 本時の目標と展開の整合性
2. 評価場面と方法
3. 目標を達成するための手立て

授業研修における授業参観や事前事後の研究協議を通して、自身のこれまでの授業を振り返り、授業実践に生かせることを見つけてほしいと考えています。これからの和歌山を担う初任者には、学校内外で謙虚に学び続け、自己の研鑽を積み、力量を高めていくことを期待しています。



「教員としての資質の向上に関する指標」は  
[学びの丘WEBページ](#)からご覧いただけます。

### (表) 「教員としての資質の向上に関する指標」における基礎形成期の授業実践力 (平成30年4月改訂)

- ① 授業構想能力・・・本時のねらいを意識したためあての設定やまとめを考え、本時の保育、授業計画を立てようとするとともに、先輩教員の助言を得ながら単元計画や評価計画を立てることができる。
- ② 指導技能・・・子供の発言や机間指導により、子供の反応や理解を確かめながら保育、授業を行うとともに、子供の理解度を、設定した場面・評価規準により評価することができる。
- ③ 省察・・・日々の保育、授業実践を振り返り、自身の課題を把握・分析し、改善することができる。

## 学び続けるということ

Monthly 所長コラム 教育センター学びの丘 所長 鈴木 晴久

### 14 雁の代見立

江戸時代の後期に書かれた『北越雪譜』という本があります。鈴木牧之という人が、雪国の風俗習慣や生活を紹介した本ですが、この中に「雁の代見立(がんのしろみたて)」という話があります。

旧暦の二月頃になると一面雪で真っ白な野山のあちこちに雪がとけて土が見えるところができます。雁がこれを見つけると、2、3羽で下りてきて、えさをあさった後で、フンを残して、ここにえさがあることを後から来る仲間の雁に教えます。これを「雁の代見立」といいます。

雁がこうするのは、仲間の鳥を集めて、えさをあさらせるためですが、牧之は友だちに対するこのような真心は人間も見習うべきであると記しています。

これに対して、人間はこの「代見立」を探して雁を捕まえようとします。雁もたびたび捕らえられるので、このことを察してフンに土をかけて隠します。それほどえさのないところには、土をかけないで二度と訪れないという知恵を働かせます。人間の方も、そのままにしないで、この「代見立」を見つけると、そこから鉄砲で狙える距離に、雪でかまぐらのような半円の堂を作り、穴を空けて鉄砲

で雁を捕まえようとするのです。これを「雪ん堂」といいます。

こうした人間の行いを、牧之は「心なき」と記していますが、私はそうは思えません。

桜の花びらのように美しく舞い散る雪も、雪国ではすさまじい自然の脅威となって人々や動物に襲いかかります。そんな中で、人間も動物も、お互いのことを学び、知恵を尽くして必死で生きてきたのだと思います。

「学ぶことは生きること」とは、こうした営みの積み重ねから生まれたものであるとあらためて思います。